

教育に関する事務の点検・評価報告書

(令和元年度事業)

令和 2 年 8 月

大仙市教育委員会

目 次

1	点検・評価の趣旨	1
2	点検評価の実施方法	1
3	教育委員会の活動に関する事務	2
(1)	教育委員会の会議の開催状況	2
(2)	教育長・委員の活動状況	4
(3)	教育長・委員の研修状況	4
4	総合教育会議の開催状況	5
5	点検・評価の対象事業	6

No.	分野	事務・事業名	担当課等
1	学校教育	校舎等維持補修及び施設整備事業	教育総務課
2	学校教育	大曲中学校水泳プール改築事業	教育総務課
3	学校教育	学校生活支援事業	教育指導課
4	学校教育	だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業	教育指導課
5	生涯学習	学校・家庭・地域連携総合推進事業	生涯学習課
6	生涯学習	嶽友大学（高齢者教育事業）	神岡中央公民館
7	芸術・文化	西仙北芸術祭	西仙北中央公民館
8	芸術・文化	優秀映画鑑賞推進事業「優秀映画鑑賞会」	中仙公民館
9	生涯学習	仙人大学（高齢者向け講座）	協和公民館
10	生涯学習	南外地域女性の集い	南外公民館
11	生涯学習	放課後子ども教室推進事業 「おらだの体験学校」	仙北公民館
12	生涯学習	太田花いっぱい運動事業	太田公民館
13	芸術・文化	払田柵跡環境整備事業	文化財課
14	スポーツ	スポーツ合宿等推進交流事業	スポーツ振興課
15	生涯学習	だいせん読書の日事業	総合図書館
16	芸術・文化	大仙市音楽祭2019	総合市民会館
17	芸術・文化	花火伝統文化継承事業（企画展示）	花火伝統文化継承資料館

1 点検・評価の趣旨

大仙市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、教育委員会が行う教育事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとしました。

2 点検・評価の実施方法

(1) 点検・評価の対象とする事務

点検・評価の対象とする事務は、令和元年度の教育委員会の活動に関する事務のほか、大仙市総合計画、新しい時代の学校教育だいせんビジョン、大仙市生涯学習推進計画又は大仙市スポーツ推進計画に基づく同年度に実施した事業のうち、17事業を選定し、点検・評価を行いました。

(2) 点検・評価の方法

点検・評価は、事務事業の点検・評価表により、担当課による自己評価を実施するとともに、有識者からの外部評価をいただきました。

(3) 外部評価していただいた有識者

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、秋田県社会教育アドバイザー 小笠原重夫氏、秋田大学教育文化学部非常勤講師 沢屋隆世氏の2氏から評価していただきました。

(4) 外部評価後の検証・実施

外部評価を踏まえ、事務事業を再検証し、できる限り今後の施策に反映していきます。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

3 教育委員会の活動に関する事務

(1) 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回開催する定例会と必要に応じて開催する臨時会があります。
令和元年度は、定例会のほか臨時会を3回開催し、合計15回開催しました。

開催期日 及び場所	議 案
H31. 4. 24 (定例会) 大曲図書館	議案第28号 奨学資金運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第29号 大仙市社会教育委員兼大仙市公民館運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第30号 公民館運営協力委員の委嘱に関する臨時代理について 議案第31号 大仙市立図書館協議会委員の任命に関する臨時代理について 議案第32号 大仙市立図書館運営協力委員の任命に関する臨時代理について 議案第33号 大仙市就学援助費支給要綱の一部を改正する要綱の制定に関する臨時代理について 議案第34号 大仙市文化財の指定について
R1. 5. 20 (定例会) 大曲図書館	議案なし (報告案件のみ)
R1. 6. 19 (定例会) 大曲図書館	議案第35号 大曲武道館建設（建築）工事請負契約案に関する臨時代理について 議案第36号 令和元年度大仙市一般会計補正予算（第2号）案に関する臨時代理について 議案第37号 令和元年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算（第1号）案に関する臨時代理について 議案第38号 給食センター運営委員会委員の任命又は委嘱に関する臨時代理について 議案第39号 （仮称）大綱交流館等整備事業建築工事請負契約案に関する臨時代理について 議案第40号 払田柵跡環境整備審議会委員の委嘱について 議案第41号 旧池田氏庭園保存整備審議会委員の委嘱について
R1. 7. 29 (定例会) 大曲図書館	議案第42号 大仙市招致外国青年任用規則の一部を改正する規則の制定について 議案第43号 大仙市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第44号 教育支援専門検査員の委嘱について 議案第45号 大仙市立小学校用教科用図書の採択について
R1. 8. 23 (定例会) 大曲図書館	議案第46号 大仙市立学校設置条例の一部を改正する条例案について 議案第47号 令和元年度大仙市一般会計補正予算（第4号）案について 議案第48号 教育に関する事務の点検・評価報告書案について
R1. 9. 27 (定例会) 大曲図書館	議案第49号 大仙市公民館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
R1. 10. 7 (臨時会) 大曲図書館	議案第50号 大仙市教育委員会職員の懲戒処分について

R1. 10. 29 (定例会) 中仙公民館 清水分館	議案第51号 払田柵跡環境整備審議会委員の委嘱について
R1. 11. 20 (定例会) 大曲図書館	議案第52号 大仙市八乙女交流センターの指定管理者の指定案に関する臨時代理について 議案第53号 大仙市民プール等の指定管理者の指定案に関する臨時代理について 議案第54号 大仙市営八乙女球場及び大仙市八乙女運動公園テニスコートの指定管理者の指定案に関する臨時代理について 議案第55号 太田新興緑地広場等の指定管理者の指定案に関する臨時代理について 議案第56号 令和元年度大仙市一般会計補正予算（第8号）案に関する臨時代理について 議案第57号 大仙市文化財の指定について
R1. 12. 25 (定例会) 大曲図書館	議案なし （報告案件のみ）
R2. 1. 24 (定例会) 大曲図書館	議案なし （報告案件のみ）
R2. 2. 19 (定例会) 大曲図書館	議案第1号 令和元年度大仙市一般会計補正予算（第10号）案に関する臨時代理について 議案第2号 令和元年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算（第2号）案に関する臨時代理について 議案第3号 令和元年度大仙市一般会計補正予算（第11号）案に関する臨時代理について 議案第4号 令和元年度大仙市奨学資金特別会計補正予算（第1号）案に関する臨時代理について 議案第5号 令和2年度大仙市一般会計予算案に関する臨時代理について 議案第6号 令和2年度大仙市学校給食事業特別会計予算案に関する臨時代理について 議案第7号 令和2年度大仙市奨学資金特別会計予算案に関する臨時代理について 議案第8号 令和2年度大仙市スキー場事業特別会計予算案に関する臨時代理について
R2. 2. 27 (臨時会) 大曲図書館	議案第9号 県費負担教職員の人事の内申について
R2. 3. 12 (臨時会) 大曲図書館	議案第10号 大仙市教育委員会職員の処分について
R2. 3. 19 (定例会) 大曲図書館	議案第11号 大仙市会計年度任用職員制度の導入に伴う関係規則の整理に関する規則の制定について 議案第12号 大仙市奨学資金貸与条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

議案第13号	大仙市立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について
議案第14号	大仙市招致外国青年任用規則の制定について
議案第15号	大仙市招致外国青年人事評価規程の制定について
議案第16号	教育アドバイザーの任命について
議案第17号	教育アドバイザーの任命について
議案第18号	教育アドバイザーの任命について

※ 議案番号は、暦年による一連番号です。

※ 10月の定例会は、移動教育委員会として開催しました。

(2) 教育長・委員の活動状況

入 学 式 平成31年 4月 5日から 4月10日まで 小学校21校、中学校11校 全32校

公民館訪問 平成31年 4月12日から 4月15日まで 市内 8公民館

学校訪問 令和元年 6月25日から12月18日まで 小学校21校、中学校11校 全32校

卒 業 式 令和 2年 3月 7日から 3月16日まで 小学校21校、中学校11校 全32校

(3) 教育長・委員の研修状況

平成31年 4月18日・19日 第70回東北都市教育長協議会定期総会及び研修会

教育長が出席

令和元年 5月23日・24日 第71回全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会

教育長が出席

令和元年 7月 5日 令和元年度東北六県市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会

教育長及び風登委員が出席

令和元年 8月22日 令和元年度全県市町村教育委員会教育長会議

教育長及び風登委員が出席

令和元年10月29日 令和元年度大仙市教育委員会委員研修視察

教育長、風登委員、鈴木委員及び工藤委員が参加

令和元年11月 1日 令和元年度秋田県市町村教育委員会連合会及び秋田県都市教育長協議会合同研修会

教育長、風登委員及び高見委員が出席

令和元年11月12日 令和元年度県南地区教育長会議

教育長が出席

令和元年11月18日 令和元年度大仙仙北美郷教育委員会連絡会

教育長、風登委員、工藤委員、中島委員及び高見委員が出席

4 総合教育会議の開催状況

総合教育会議とは、平成27年4月に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」に基づき、市長と教育委員会を構成員として設置されるもので、市長と教育委員会が教育の課題やあるべき姿を共有し、相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としています。

令和2年2月5日、大曲庁舎において令和元年度第1回大仙市総合教育会議を開催しました。

この会議では、令和元年度の主な教育施策の概要と今後の教育施策について意見交換とともに、市長から提案された今後の教育委員会機構の在り方についても意見交換を行っています。

【令和元年度第1回大仙市総合教育会議】

日時 令和2年2月5日（水） 午前9時30分

場所 大曲庁舎

協議

- (1) 令和元年度の主な教育施策の概要と今後の教育施策について
- (2) 今後の教育委員会機構の在り方について

事務事業の点検・評価表

	番号	1	分野	学校教育	担当課	教育総務課								
事業名	校舎等維持補修及び施設整備事業													
事業の目的	この事業は、学校施設の整備を図り、快適又は安全な教育環境を提供することを目的とする。													
	事業費					426,314千円								
事業の実施状況	【主な改修工事】 1 小学校(9校)施設空調設備設置工事・・・265,832千円 2 太田中学校屋根改修工事・・・41,398千円 3 太田東小学校高压受電設備改修工事・・・20,463千円 4 大曲西中学校高压受電設備改修工事・・・28,050千円 5 西仙北小学校非常階段改修工事・・・6,966千円													
	【校舎等維持補修及び施設整備費の推移】 <table border="1" style="width: 100%;"><thead><tr><th></th><th>平成29年度</th><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>決算額</td><td>345,795</td><td>469,599</td><td>426,314</td></tr></tbody></table>		平成29年度	平成30年度	令和元年度	決算額	345,795	469,599	426,314					(単位：千円)
	平成29年度	平成30年度	令和元年度											
決算額	345,795	469,599	426,314											
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成したが課題があった	<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった												
	学校施設の様々な改修工事を実施し、快適又は安全な教育環境を確保することができた。 特に、小学校9校にエアコンを設置し、児童の熱中症対策を講じることができた。残りの小・中学校についても、早期に設置したい。													
課題等	建築後30年以上経過している校舎・屋内運動場が6割を超えており、今後、改修に多額の経費を要することが予想される。こうした状況を踏まえ、長寿命化計画を策定し、計画的に改修を行っていくことで改修費の縮減を図る必要がある。													
外部評価 有識者の意見・評価	○ 「長寿命化計画」に沿い、今後も計画的に校舎等の改修を進めていただきたい。 新型コロナウイルス対策として、児童生徒は今、マスクを付けて過ごしている。授業時数確保のため、夏休みが短縮される動きもある中、暑さ対策は重要で、普通教室へのエアコン設置は優先度が高い事業といえる。未設置の学校への早期設置を期待する。 ◇ 児童生徒が安全で安心な施設環境で学習をするためにも、老朽化が著しい校舎等から計画的に改修・整備することが必要である。まずは長寿命化計画の策定を進め、その計画を進めることで経費縮減も図られるものである。 今後の校舎の在り方も見据え、エアコン設置を中学校へも進めていただきたい。													

事務事業の点検・評価表

		番号	2	分野	学校教育	担当課	教育総務課								
事業名	大曲中学校水泳プール改築事業														
事業の目的	この事業は、大曲中学校の老朽化した水泳プールを改築することにより、水泳授業や部活動の円滑な実施に資するとともに、プール水を飲料水に活用できる設備を整備し、災害時に備えることを目的とする。														
	事業費						280,097千円								
事業の実施状況	<p>○ 昭和42年に建設され、老朽化したコンクリート製の大曲中学校水泳プール（50m×8コース）を解体し、FRP（強化繊維プラスチック）製浄水型水泳プール（25m×10コース）を設置した。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>実施設計費</td> <td>5,400,000円</td> </tr> <tr> <td>設計監理費</td> <td>1,234,440円</td> </tr> <tr> <td>工事監理費</td> <td>4,424,760円</td> </tr> <tr> <td>工事請負費</td> <td>269,037,720円</td> </tr> </table>		実施設計費	5,400,000円	設計監理費	1,234,440円	工事監理費	4,424,760円	工事請負費	269,037,720円					
実施設計費	5,400,000円														
設計監理費	1,234,440円														
工事監理費	4,424,760円														
工事請負費	269,037,720円														
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成したが課題があった			<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった											
	<p>工事中思わぬトラブルがあり工期が延長となつたが、これを乗り越えて水泳プールを改築することができた。</p> <p>生徒が授業や部活動に大いに利用することにより、心身の鍛錬に役立つものと考えている。</p>														
課題等	平成30年度・令和元年度の2箇年の継続事業としてスタートしたが、地盤強化のための工程で地下から木片が出て十分な地盤強度を得られないことが判明し、工法を変更せざるを得なくなつた。このため、これらへの対応に時間を要し、工期が大幅に伸びた。当初、令和元年6月に完成させる予定だったが、10月の完成となった。														
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 大曲中学校生徒の水泳授業や部活動での利用はもとより、災害時における飲料水提供等を含めた多目的な活用が期待される。</p> <p>◇ 工期延長があり、整備が遅れたが、今後は積極的な活用を図るようにお願いしたい。特に、プール水を飲料水に活用できる設備については、学校は、避難所にも指定されていることから地域との防災訓練等でも活用して備えることも重要である。</p>														

事務事業の点検・評価表

番号	3	分野	学校教育	担当課	教育指導課																																				
事業名	学校生活支援事業																																								
事業の目的	小・中学校において、学校生活を送る上で様々な配慮が必要な児童生徒に対して支援員を配置し、個々の実情に応じたきめ細やかな支援を行うことにより教育環境の充実を図る。																																								
事業の実施状況	事業費	95,917千円																																							
	1 学校生活支援員等の配置 ①学校生活支援員 配置校：17校 特別な支援を必要とする児童生徒に対し、学校生活全般において支援を行う。 ②日本語指導支援員 配置校：2校 日本語指導支援を必要とする海外出身等の児童生徒に対し、支援を行う。 ③学校生活支援員(看護師) 配置校：1校 学校において医療的ケアを必要とする児童生徒に対し、支援を行う。 ④複式学級支援員 配置校：2校 複式学級の学習及び生活指導に当たる担任の補助等を行う。																																								
2 教育アドバイザーの配置 特別支援教育アドバイザーとして1人を配置。全小・中学校を訪問、授業参観をして、特別支援教育の具体的な支援方法や学校体制について助言を行う。																																									
【支援員等配置人数及び決算額】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">支援員数 (単位:人)</th> <th colspan="4">内訳</th> <th rowspan="2">教育アドバイザー (単位:人)</th> <th rowspan="2">決算額 (単位:千円)</th> </tr> <tr> <th>①学校生活支援員</th> <th>②日本語指導支援員</th> <th>③学校生活支援員(看護師)</th> <th>④複式学級支援員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>60</td> <td>55</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>93,941</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>61</td> <td>56</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>98,285</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>61</td> <td>55</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>95,917</td> </tr> </tbody> </table>						年度	支援員数 (単位:人)	内訳				教育アドバイザー (単位:人)	決算額 (単位:千円)	①学校生活支援員	②日本語指導支援員	③学校生活支援員(看護師)	④複式学級支援員	H29	60	55	2	1	2	1	93,941	H30	61	56	1	1	3	1	98,285	R1	61	55	2	1	3	1	95,917
年度	支援員数 (単位:人)	内訳						教育アドバイザー (単位:人)	決算額 (単位:千円)																																
		①学校生活支援員	②日本語指導支援員	③学校生活支援員(看護師)	④複式学級支援員																																				
H29	60	55	2	1	2	1	93,941																																		
H30	61	56	1	1	3	1	98,285																																		
R1	61	55	2	1	3	1	95,917																																		
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった					<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった																																			
	学校生活支援員の配置により、学校生活を送る上で様々な配慮が必要な児童生徒に対し、きめ細やかで適切な支援ができている。また、このことが学習環境の整備にもつながり、支援が必要な児童生徒だけでなく、他の児童生徒も学習への意欲をもって取り組むことができるようになっている。 更に、教育アドバイザーによる学級の支援体制や支援方法についての助言によって、より一層、特別支援教育の充実を図ることができた。																																								

課題等	<p>児童生徒数が減少傾向にある一方で、発達障がい等があるなど支援を要する児童生徒は増えている。また、発達の過程や学校・家庭等の環境の変化により、支援の必要性が高まるケースも増えており、対応する支援員の体制を整えていくことが課題である。</p>
外部評価 有識者の意見・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本事業は、継続が必須な最重要事業といつてもよい。 本市において、特別な支援を必要とする児童生徒は確実に増えており、支援員の配置は、今や学校経営に欠かすことのできないものとなっている。今後は、中学校への配置拡充も期待したい。 支援員の資質向上研修も、更なる充実深化を望む。 ◇ 児童生徒が減少傾向にある中で、支援や配慮が必要とされる児童生徒は増えている現状を踏まえ、支援を受ける本人はもとより、周りの児童生徒も安心して学校で生活できる環境を支えてくれる支援員の役割は大変重要である。支援の状況を家族等への理解を進め、学校、医療機関や相談機関等が連携し、望ましい支援体制を構築していただきたい。そのためにもアドバイザーも必要である。

事務事業の点検・評価表

番号	4	分野	学校教育	担当課	教育指導課																				
事 業 名	だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業																								
事業の目的	<p>学校と地域の自主防災組織等の連携により、災害時の避難所運営について実践的な訓練を実施することにより、生徒の防災教育の充実に資するとともに、家庭及び地域の防災意識の向上に寄与する。また、本市中学校の特色の一つともなっている東日本大震災で被災された方々との交流活動が、児童生徒の防災意識を高める重要な取組であることから、その内容の充実を期して活動を支援していく。</p>																								
	事業費	1,691千円																							
	<p>1 避難所開設訓練</p> <p>(1) 実施日 令和元年10月29日(火)</p> <p>(2) 場所 豊成中学校</p> <p>(3) 参加者 訓練実施校の生徒及び教職員、地域住民 中学生サミットメンバー、関係機関等</p> <p>(4) 主な活動 地震発生時の避難訓練及び避難所開設に関わる初期対応 (生徒避難、避難所開設及び運営、炊き出し等)</p> <p>2 被災地交流</p> <p>(1) 実施日 令和元年5月～11月の期間中、各校で実施</p> <p>(2) 場所 岩手県及び宮城県の被災地</p> <p>(3) 参加者 実施校の生徒及び教職員、地域住民、関係機関等</p> <p>(4) 主な活動 被災地域の中学生やその地域住民とのふれあい (グラウンドゴルフ大会、物産販売体験、新米贈呈等)</p>																								
事 業 の 実施状況	<p>【3か年の実施状況】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">年</th> <th style="width: 25%;">避難所開設実施校</th> <th style="width: 20%;">避難所開設 参加者数(人)</th> <th style="width: 20%;">被災地交流実施校</th> <th style="width: 20%;">決算額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>太田中</td> <td>320</td> <td>大曲中、平和中、 南外中、太田中</td> <td>4,675</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>大曲南中</td> <td>225</td> <td>大曲中、平和中、 南外中、太田中</td> <td>3,002</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>豊成中</td> <td>261</td> <td>平和中、南外中、 太田中</td> <td>1,691</td> </tr> </tbody> </table>					年	避難所開設実施校	避難所開設 参加者数(人)	被災地交流実施校	決算額(千円)	H29	太田中	320	大曲中、平和中、 南外中、太田中	4,675	H30	大曲南中	225	大曲中、平和中、 南外中、太田中	3,002	R1	豊成中	261	平和中、南外中、 太田中	1,691
年	避難所開設実施校	避難所開設 参加者数(人)	被災地交流実施校	決算額(千円)																					
H29	太田中	320	大曲中、平和中、 南外中、太田中	4,675																					
H30	大曲南中	225	大曲中、平和中、 南外中、太田中	3,002																					
R1	豊成中	261	平和中、南外中、 太田中	1,691																					
	<p>※H29被災地交流について、大曲中の実施に合わせ大曲中学区内の4小学校の代表児童も参加。また、太田中の実施に合わせ、太田地域内3小学校の6年生も参加。</p> <p>※H30被災地交流について、大曲中の実施に合わせ大曲中学区内の4小学校の代表児童も参加。また、太田中の実施に合わせ、太田地域の小学生及び地域住民も参加。</p>																								

	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった	<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった
自己評価	<p>本事業の実施により、生徒が実践的な訓練を体験することができ、充実した防災教育の機会となった。生徒がこの訓練を通して学んだことを家庭や地域と共有することで、地域における防災意識の向上を図る契機とすることができ、その効果は大きいと思われる。</p>	
課題等	<p>防災意識が薄れないよう、引き続き、自らの生命は自ら守ることや、地域の一員としての自覚をもち、助け合うといった防災意識の向上に努めていくことが必要である。避難所開設訓練では地域の実態に即した避難所開設の在り方や、自主防災組織と連携した防災活動や被災地交流事業に関しては、期間や内容について検討する必要がある。</p>	
外部評価 有識者の意見・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本市中学校の被災地支援の素晴らしいところは、現地に何度も足を運び、現地の人たちの生活の変化に寄り添いながら、支援の内容を少しずつ変えていくところである。このことは、被災地の学校と被災地以外の学校との交流のモデルケースになるのではないか。震災の記憶を風化させないためにも、本事業を是非継続していただきたい。生徒には支援を続けていくことで、災害への備えを学び取ってほしい。 ◇ 東日本大震災やその後の河川氾濫による被害もあり、防災意識の向上は常に図っていかなければならない。学校はもとより、それに関わる地域の意識啓発にもつながる大事な事業である。 	

事務事業の点検・評価表

番号	5	分野	生涯学習	担当課	生涯学習課	
事 業 名	学校・家庭・地域連携総合推進事業					
事業の目的	<p>未来を担う子供たちの成長を支えるには、地域と学校が連携・協働し地域全体で教育を行うことが重要である。</p> <p>そのため幅広い地域住民や企業・団体等の参画により、子供たちの成長を支え、地域を創生する活動（地域学校協働活動）を推進し、また、活動を通じて子供たちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子供たちが安心して暮らせる環境づくりを推進する。</p>					
事業費	3,436千円					
事 業 の 実施状況	<p>大仙市各地域の地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）を中心に、地域特性を生かした事業を実施しており、子供たちを学校だけでなく地域全体で育てるという認識が浸透してきている。また、地域住民の知識や経験、学習成果の活用機会の増加により、地域の教育力の向上、地域の方の生きがいづくりにも結びついている。</p> <p>（学校支援地域本部数：10本部）</p> <p>【平成29年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校支援活動 10本部…鹿島流し、町内フィールドワーク、郷土芸能伝承 など ②放課後子ども教室 24教室…囲碁教室、夏休み学習会、読み聞かせ など ③わくわく土曜教室 1教室…サタデースクール、ジュニアリーダー養成支援 <p>【平成30年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校支援活動 10本部…高校、大学との交流、登下校の見守り、学校行事支援、職場体験、伝統芸能継承 など ②放課後子ども教室 26教室…囲碁・将棋教室、学習会 など <p>【令和元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校支援活動 10本部…こども園、中学校、農業高校との交流、花火ボランティア、学校行事サポート、あいさつ運動 など ②放課後子ども教室 24教室…夏休み学習会、読み聞かせ、郷土芸能教室など 					
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった	<input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった				
課 題 等	<p>子供たちは、専門的な知識や技能をもった地域住民等とのふれあいを通じて、学びや体験活動が充実するとともに、地域の人々と顔見知りになり、地域の担い手としての自覚が高まった。</p> <p>また、学校としても学校支援ボランティアが組織化され、持続可能な支援体制が構築された。</p> <p>地域住民同士も交流の場が生まれ、学校を舞台に地域の緩やかなネットワークが形成され、新たなコミュニティがつくられた。</p>					

<p>外部評価</p> <p>有識者の意見・評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校支援地域本部」は、本市において十分な定着が見られる。平成29年度からは、その発展形として「地域学校協働本部」がスタートしているので、本市もその形にシフトし、地域と学校との「協働活動」を更に推進する体制を構築していただきたい。 ◆ 地域と学校とのつなぎ役・橋渡し役を、地元の公民館も担っていることは、他市町村にはあまり見られない大仙市ならではの強みである。地域と学校の連携・協働の実務を公民館が担うことは、今後更なる充実を期待したい。 ◆ 学校と地域・家庭が連携して総掛かりで子供を育む体制を整備しながら、地域の活性化を図る重要な施策である。人口減少や少子高齢化が急激に進む本市にとって、学校と地域等が連携協力して、推進員が役割を果たして、人材ネットワークを形成して、つながることは子供の社会性を育むことにもなり、明日を支える人材育成そのものといって過言ではない。 ◆ 国・県の補助事業であることから、積極的に補助を活用して事業を拡充していただきたい。
------------------------------	---

事務事業の点検・評価表

番号	6	分野	生涯学習	担当課	神岡中央公民館									
事業名	嶽友大学（高齢者教育事業）													
事業の目的	高齢者に生涯学習活動の機会を提供し、受講者相互の交流を図りながら生涯学習の推進と高齢者の生きがいづくりや学習意欲の向上を図ることを目的とする。													
	事業費	369千円												
事業の実施状況	<p>高齢者を対象に5月から3月までそれぞれ年間12回ずつ開催している。講座の内訳は、水墨画・民謡（唄）・民謡（踊り）・書道・俳句・園芸・ヨガの7学科である。ヨガは、火曜日開講であるが、そのほかの学科は木曜日と金曜日に分け午前に開催し、複数学科の受講が可能となっている。また、民謡（唄）は令和元年度途中から開設され、民謡愛好者の要望に応えたものである。</p> <p>学習を通して知識や技術の向上が図られるばかりでなく、仲間との語らいを通じて生きがいづくりに役立っていることから、長年にわたり学習を継続されている方も多く、これらの学習成果の発表の機会として、例年10月に開催される地域文化祭も学習者の楽しみの一つになっている。</p> <p>嶽友大学は、昭和57年に開講され30年以上の歴史のある高齢者講座で、最盛期には8学科で100人以上が受講していたが、受講者の高齢化、固定化が進んでいる。</p> <p>【過去3年の受講者数の推移】 ※複数学科の受講者は各年度とも3人ずつ</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>◎平成29年度</td> <td>6学科</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>◎平成30年度</td> <td>6学科</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>◎令和元年度</td> <td>7学科</td> <td>49人</td> </tr> </table>					◎平成29年度	6学科	40人	◎平成30年度	6学科	43人	◎令和元年度	7学科	49人
	◎平成29年度	6学科	40人											
◎平成30年度	6学科	43人												
◎令和元年度	7学科	49人												
	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかつた													
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の知識や教養を高めるための学習活動の場であるとともに、同好の仲間との交流の場として高齢者の生涯学習や生きがいづくりに大いに役立っている。 ・学習活動の成果を地域に生かす取組として公共施設の樹木剪定や民謡大会の運営協力など地域づくりにも貢献している。 ・受講者の高齢化、固定化が進んでいるものの、ヨガなど健康志向の新しい分野の講座の開設などにより新規の申込者も若干みられるようになった。 													
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の確保に向けた取組として、地域を越えた事業PRによる学習情報の提供や高齢者の学習ニーズの把握に努めていく。 ・近隣公民館相互の情報交換に努め、類似事業の連携や共催など将来的な方向について検討を重ねていく。 													
外部評価 有識者の意見・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史ある「嶽友大学」は、今後も是非継続していただきたい。 「高齢者大学」受講者の高齢化・固定化は、県内の他市町村でも見られる課題である。今後は、地元の小・中学校との合同講座（移動講座）を実施したり、市内他地域の高齢者大学との連携講座を開催したりすることも視野に入れていただきたい。 ◇ 高齢者の生きがいや交流の場づくりにもつながっている事業である。参加者を増やし、更に学習者の意欲を喚起するためにも、今後は学んだ成果を地域や子供たちに一層生かす方向で進めていただきたい。 													

事務事業の点検・評価表

番号	7	分野	芸術・文化	担当課	西仙北中央公民館
事業名	西仙北芸術祭				
事業の目的	地域住民で構成する大仙市芸術文化協会西仙北支部加盟団体会員の日頃の活動成果を発表する機会とともに、地域住民が芸術や文化に親しみ、関心を深める機会とすること、地域の芸術文化の振興を図ることを目的とする。				
事業の実施状況	事業費		25千円		
	毎年6月下旬の土日に開催し、お茶会・作品展のほか、西仙北高校の作品展を併設。 ◎実施実績 (R1) • 呈 茶 6月30日 日本礼道小笠原流 高根社中 • 作品展 6月29日・30日 ○協会員作品 195点 (水墨画10点、七宝焼98点、短歌27点、陶芸29点、書道16点、絵画15点) ○高校生作品 15点 (書道部3点、美術部10点、華道部2点) ◎参加者 平成29年度 200人 (来場者162人) 会場: 西仙北中央公民館 平成30年度 120人 (来場者 81人) 会場: 刈和野地区公民館 令和元年度 120人 (来場者 86人) 会場: 刈和野地区公民館				
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった			<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった	
	<p>西仙北中央公民館の改築により、平成30年度と令和元年度は刈和野地区公民館へ会場を移しての開催となった。地区公民館は会場が狭く、出品数を絞っての開催となつたほか、十分な来館者の駐車スペースを確保することが難しかったため、来場者の目標を西仙北中央公民館開催時の半数としていたが、多くの方に来場いただき目標を達成することができた。</p> <p>芸術祭は高校生の作品も展示しており、若い力を感じる作品は会員にとってよい刺激となっている。また、芸術文化を通した世代間の交流の場にもなっており、お互いの作品や交流によっても、地域の芸術文化の振興が図られていると感じる。</p>				
課題等	<p>新規に「ちぎり絵サークル」が加盟し、支部協会や地域芸術文化の新しい活力となってくれることが期待されるが、会員の高齢化などにより、団体の解散や会員の減少が大きな課題となっている。</p> <p>芸術祭は会員にとって日頃の活動成果を発表する絶好の機会である。会員のモチベーション向上や振興を図る意味でも、より多くの方に来場いただけるよう周知方法の見直しや強化が必要と感じる。</p> <p>また、体験教室など、作品展示以外の催しを行い、来場者が一層関心を深められる機会の提供や各団体の活動を発信する場を設けるなど、課題解決の一助となる活動や団体の活力向上を図る取組が必要と感じる。</p>				
	外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 地域の活力維持やにぎわい創出のため、是非継続していただきたい事業である。リニューアルされた西仙北中央公民館で、今後どのような芸術祭が開催されるのか、とてもワクワクする。</p> <p>会員のモチベーションの維持向上策として、地元の園、小・中学校及び高校との連携も視野に入れていただきたい。</p> <p>◇ 会員減少への対応や地域への活動団体の活動を多くの市民の方々に認知してもらうためにも、秋祭りでの開催や新たにできる大綱交流館での継続的な体験教室など芸術団体自らが工夫して活動することが必要である。</p>			

事務事業の点検・評価表

番号	8	分野	芸術・文化	担当課	中仙公民館				
事業名	優秀映画鑑賞推進事業「優秀映画鑑賞会」								
事業の目的	往年の優れた名作映画を鑑賞する機会が減少している中、映像芸術の原点となる映画の素晴らしさに触れる機会を提供することにより、映画文化に対する意識を高め、映画保存の重要性への理解を深めるとともに、地域における上映活動を通じて、文化活動の活性化、コミュニティ活動の充実を図ることを目的とする。								
	事業費	251千円							
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・日 時：令和2年1月25日（土）開場12時30分 開演13時00分 26日（日）開場12時00分 開演12時30分 ・場 所：中仙市民会館 ・入場者：二日間合計179人（25日・80人、26日：99人） ・入場料：一日券500円、二日通し券800円（高校生以下無料） ・事業費：25万153円（入場料収入：8万3,300円） ・内 容：国立映画アーカイブが所蔵する名作映画（35mmフィルム）の上映 日本映画の刷新を試み続けた市川崑。小説の映画化として評価の高い作品 に、国民的議論を巻き起こした記録映画を加えた4作品を上映 1/25 ①野火（1959年）、②ぼんち（1960年） 1/26 ③東京オリンピック（1965年）、④おはん（1984年） <p>※本事業の実施に要する経費のうち、会場使用料や付帯設備使用料、広報経費（チラシ・ポスター作成）、業務委託料（映写技師オペレート）等の経費は主催者（会館側）の負担とし、映画フィルムの提供や輸送費、上映時に配付する「鑑賞の手引き」（上映パンフレット）等は国立映画アーカイブが負担している。</p>								
【過去の事業実績】									
<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> 期 日：平成30年1月27日（土）・28日（日） 入場者：二日間合計182人（27日・85人、28日・97人） 事業費：20万8,456円（入場料収入：8万1,400円） 作 品：1/27 ①不知火検校（1960年）、②次郎長三国志（1963年） 1/28 ③網走番外地（1965年）、④人生劇場 飛車角と吉良常（1968年） ・平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> 期 日：平成31年2月2日（土）・3日（日） 入場者：二日間合計178人（2日・64人、3日・114人） 事業費：24万3,449円（入場料収入：8万2,100円） 作 品：2/2 ①張込み（1958年）、②悪い奴ほどよく眠る（1960年） 2/3 ③黒い画集 あるサラリーマンの証言（1960年）、 ④白い巨塔（1966年） 									

	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった	<input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 本事業は平成16年度から開催しており、令和元年度で15回目（平成19年度を除く。）を数える当館の定番事業となっている。毎回上映を心待ちにしている市内外のフィルム映画愛好家の方や、鑑賞のためだけに県外からの訪れる来場者もあり、他地域ではあまり例をみない貴重な機会を提供できていると感じている。 鑑賞者アンケートでは「当時の様々な思い出がよみがえってきて、感動した」「当時と同じ映画をまた鑑賞できる喜び」「数十年たっても名作は色褪せない」「すごく心に響いた、機会があったらまた鑑賞したい」等の感想が多数寄せられ、毎回好評を得ている。 現在では稀少な35mmフィルム映写機を当館で所有していることから、主催者が負担する経費も少ない優良な事業であるため、今後も設備の維持管理を実施しながら継続していきたいと考えている。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 上映する作品の年代の関係で、鑑賞者の大半が60歳以上になってしまうことから、幅広い年齢層の方々に良い映画文化に触れてもらうため、今後は周知の方法を工夫していくことで、興味や関心を持ってもらうきっかけを増やしていきたい。また、そのためにも近年の優秀作品を上映していくことも検討していく必要がある。 設備の老朽化が懸念される。当館で所有している35mmフィルム映写機も、2002年（平成14年）製であるため、いくつか故障している箇所が見受けられる。今後も継続して事業を実施していくためには、映写機を含む設備の維持管理費の増加が課題になってくる。 	
外部評価 有識者の意見・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 35mmフィルム映写機による往年の名作上演は、マニアにとっては垂涎のものだろう。今後、SNSを利用するなど広報の仕方を工夫して、是非県外や県内他市町村のフィルム映画マニアを呼びこんでみてはどうだろうか。やり方によっては“聖地”となる可能性を秘めたオンライン事業だと思う。 ◇ せっかくの貴重な映像上映機会であるので、高齢者、マニアのみだけでなく、地元の幅広い年代層を巻き込んだ形で開催してほしい。 中仙地域の地元の強みをうまく工夫してみたい。例えば、黒沢明監督とゆかりのある作品等や、上映する作品についての懇談会など、話し合いの場を設けるきっかけづくりをしていくのもよいのではないかと思う。 	

事務事業の点検・評価表

						番号	9	分野	生涯学習	担当課	協和公民館
事業名	仙人大学（高齢者向け講座）										
事業の目的	生涯学習の精神にのっとり、学習を通じて自己を高めるとともに、地域社会の文化の発展に寄与することを目的としている。										
	事業費										65千円
事業の実施状況	仙人大学は、大仙市協和地域に在住する満60歳以上の方を対象とし、郷土研究学部、園芸学部、健康学部、文学部、美術学部、音楽学部、情報学部の7学部で構成されている。 大学の運営方針は、 ① 生きがいのある生活を送るための楽しい学習をする。学んだことを社会や地域に生かすことができるよう元気に豊かに学習する。 ② 自主的な学習を進める。みんなが先生、みんなが学習者、共に学ぶ仲間をふやそう。 ③ 学習会に公開講座を加え、仙人大学生以外にも学習の機会を提供する。 以上の三つを方針としている。 各学部の学習や行事の計画は学生が自主的に行い、小学校と連携して郷土を愛し郷土を創る学習会を実施している。										
	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度							
	学生数	65人	72人	65人							
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった		<input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった								
	学生の高齢化に伴い、自動車運転免許の返納や交通手段に限りがあることから、学生が減少傾向にあるものの、各学部が活発に活動をしていて、学習内容についても自主的に選定し、実施している。										
課題等	令和2年度は、全体で65人の学生で運営しているが、学部によっては数人のところもあり、近隣の公民館と連携を密にし、類似する団体が合同で学習できる環境づくりが必要となる。										
外部評価 有識者の意見・評価	○ 「仙人大学」が、地元小学校と連携ながら「郷土を愛し、郷土を創る学習会」を実施していることには、大いに好感がもてる。学校と公民館の連携・協働のモデルケースとして、今後、市内の他地域にも広がっていくことを期待したい。 ◇ 高齢者の生きがいや交流の場づくりにもつながっている事業である。参加者を増やし、更に学習者の意欲を喚起するためにも、今後は学んだ成果を一層地域や子供たちに生かす方向で進めていただきたい。										

事務事業の点検・評価表

番号	10	分野	生涯学習	担当課	南外公民館						
事業名	南外地域女性の集い										
事業の目的	南外地域の女性団体・女性が一堂に会し、お互いに日頃学習した内容について情報交換するとともに、今後の活動意欲を高め女性の力による地域興しを図る機会とする。										
	事業費	98千円									
事業の実施状況	<p>地域婦人学級の発表の場として始めた「中央婦人学級婦人の集い」事業だったが、学習団体にこだわらず広く女性の学習発表や地域参画の機会提供の場として徐々に対象を広げ、平成21年からは「南外地域女性の集い」と名称を変えて事業を継続している。</p> <p>【実施日】 令和2年2月13日 【実施場所】 南外コミュニティセンター 【事業内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 講師：大仙市老人クラブ連合会会長 ・体験学習会（ストレッチ・簡単な筋力トレーニング） 講師：秋田県スポーツ科学センター スポーツ主事 ※「秋田県庁出前講座 あきた元気アップ円熟塾」 ・学習発表 ・交流会 <p>【参加者数】</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>平成29年度</td> <td>109人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>78人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>97人</td> </tr> </table> </p>					平成29年度	109人	平成30年度	78人	令和元年度	97人
平成29年度	109人										
平成30年度	78人										
令和元年度	97人										
自己評価	<p><input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった</p> <p><input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>実行委員会を組織し、企画段階から市民が事業にかかわれるようしている。 講師には地域の人材を依頼するなど地域に根ざした学習や新たな知識習得のために県の事業を活用するなど更なる学習の場の提供とともに経費の削減に努めている。 参加者が地域活動に加わるきっかけづくりとして、講演や学習発表を聞くだけでなく、座ったまま一緒に体操する、テーブルごとに起立して歌を歌うなど積極的に事業に参加することに抵抗のある市民にも受身にならない参加の仕方を模索し、地域住民の交流の場を提供することで地域の絆づくりに役立っている。</p>										
課題等	女性に特化した事業の必要性が薄くなってしまっており、参加者も減少している。本事業の参加者の多くは高齢者であり、世代的には女性の集まりなら参加するという市民も多い。時代のニーズにあった、多くの市民が参加できる事業を進めていきたいが、同時に各世代に対応したニーズにも対応していきたい。										
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 座学だけではなく体験型のメニューも加えながら、受け身ではなく参加型の集いになるよう工夫している点は、とても好感が持てる。</p> <p>本事業は、高齢者の孤立化を防ぐ事業としても効果があるのではないだろうか。今後は、“ヤングママ”世代も参加できるような内容も、是非企画していただきたい。</p> <p>◇ 他地域ではなかなか開催しづらくなっている中、地域の女性自らが企画運営する実行委員会で運営されており、厳冬期であるにも関わらず参加者が多く、貴重な交流の場となっている。是非継続に努めたい。</p>										

事務事業の点検・評価表

番号	11	分野	生涯学習	担当課	仙北公民館
事業名	放課後子ども教室推進事業「おらだの体験学校」				
事業の目的	<p>この事業は、大仙仙北地域を担う子供たちに安全・安心な居場所（活動拠点）を設け、様々な体験活動や地域住民との交流活動等の場を提供することで、心豊かでたくましい育ちを支援することを目的とする。</p>				
事業の実施状況	事業費	500千円			
	<p>毎週土曜日の午前中、ふれあい文化センターの一室を子供たちの安全・安心な遊び場として開放し、子供たちの定期的・継続的な体験交流活動を支援する。また、季節ごとに体験型イベントを実施する。</p> <p>①サタデーキッズパーク (毎週土曜日午前中) ②七夕かざりつけ＆ぞきぞき★オリンピック (6/29実施、参加者数54人) ③子ども夏まつりデラックス (7/27実施、参加者数172人) 参加型の子供まつり ④史跡の里の秋まつり 「縁日コーナー」 (10/27実施、延べ参加者数755人) ⑤クリスマスツリー飾り付け (11/30実施、参加者数38人) ⑥クリスマスリースづくり＆おはなし会 (12/14実施、参加者数41人) ⑦ゆきんこまつり (2/1に実施、参加者数約100人) 参加型の子供まつり ⑧オリジナルバッヂづくり (2/29→新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)</p> <p>【過去の内容並びに参加者数】 令和元年度延べ964人 (秋まつり分除く。) 40回開催、平均参加者数24.1人、事業費50万円 平成30年度延べ940人 (〃) 44回開催、平均参加者数21.4人、事業費60万円 平成29年度延べ707人 (〃) 37回開催、平均参加者数19.1人、事業費60万円</p>				
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった		<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった		
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費が10万円減額され、令和元年度から50万円となったが、1回当たりの平均参加者数は増えていることから、低コストで満足度の高い事業が提供できている。 ・イベント時はもちろん通常の活動であるサタデーキッズパークにも参加者が多く、地域の子供の居場所として定着している。参加者は、幼児から小学生まで幅広い年齢が参加し、学年を越えた交流が図られることから、子供たちの心の成長に貢献できている。 ・季節ごとに実施している体験型イベントでは、子供たちはもちろん、スタッフとして高校生インター、地域ボランティア団体等が積極的に参加しており、学校・地域・行政が連携できる貴重な役割を果たしている。 				
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費の全額を国・県・市の補助金で賄っていることから、支出できる項目の縛り等があり、事業内容に制約がある。 ・円滑に事業が提供できるよう、適切なサポートの人数を確保したり、資質の向上を図っていく必要がある。 ・事業本体の目的のほかに、親世代の集客や交流の促進を図るためのしきけや態勢を工夫する必要がある。 				
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 率直に言って、素晴らしい取組である。「おらだの体験学校」の取組は、「放課後子ども教室事業」のモデルケースといえる。今後、その取組のノウハウが、他地域の放課後子ども教室に波及していくことを期待したい。 あえて欲を言えば、今後、福祉部局の「放課後児童クラブ(学童保育)」との連携を図った取組ができれば、もう鬼に金棒だろう。</p> <p>◇ 実行委員会がコーディネーターを中心に機能しており、子供の貴重な体験活動の場であり、地域住民が子供に関わる機会となっている素晴らしい取組である。 国・県の補助事業をうまく工夫しながら今後も拡充に努めたい。できれば大仙市全域でこのような活動ができるような体制にしていくことが望まれる。</p>				

事務事業の点検・評価表

		番号	12	分野	生涯学習	担当課	太田公民館
事業名		太田花いっぱい運動事業					
事業の目的	花は人々の心に潤いと安らぎを与えることにより優しさと思いやりの心も育てていく。地域や学校、団体等による花づくり活動を通して、地域コミュニティの活性化や子供たちの健やかな心の成長につながる事業に取り組み、元気な地域づくりと多世代交流の促進を図ることを目的としている。						
	事業費	1,192千円					
事業の実施状況	1 地域花だん活動支援	太田地域住民と子ども会、太田中学校生徒による地域花だんの植栽。夏休みには子ども会・中学生が交替で花の水やりや地域住民が花だんの草取りなどを実施。地域の環境を整える支援事業（花苗の配布）。					
	2 太田地域花いっぱいコンクールの実施	昭和63年から実施。毎年8月に、太田地域の家庭・学校・団体等の花だんコンクールを開催。審査員が町内を巡回し審査を実施。10月に表彰式を実施（賞状と副賞を贈呈）。					
		・申込件数 H29 100件、H30 93件、R1 92件					
	3 全県花だんコンクール応募への支援	全県花だんコンクール応募の支援（昭和46年から）。9月の現地審査では、審査箇所日程表作成及び案内を実施。表彰式10月。					
		・申込件数 H29 12件、H30 12件、R1 10件					
	4 太田花だんフェアの開催（おおた花の会との共催）	平成5年から始めている事業。8月末から9月初めにかけ太田中学校前庭を会場に、団体や個人で丹精込めて育てた花のプランターや鉢植えを持ち寄り、花だんフェアを開催。開催期間の最初の土・日にはイベントとして、小・中学生によるマーチングや吹奏楽演奏会、寄せ植え体験講習、学校・個人の花だんを巡るお花見バスを運行。					
		・プランター出品件数 H29 16件、H30 19件、R1 17件					
	5 水仙ロード設置活動（球根植え）	昭和36年秋田国体を契機に県の花いっぱい運動の会が提唱した花いっぱい運動を、太田地域では昭和39年の秋に子ども会が土地改良で整備された道路脇に水仙を植えたのが始まり。					
		太田公民館や太田支所が中心となり地域内外の方々に水仙の球根を提供してくれるよう呼びかけ、11月におおた花の会、地域の方々の協力を得て道路脇に水仙の球根を植える事業。					
	6 太田シンボル花だん・花の看板の設置	太田地域に入る道路付近に花のまちをイメージする看板の設置（4か所）。中心部にシンボル花だん（1か所）を設置し、「花のまち太田」をPR。					
	7 実技研修会	おおた花の会が中心となり、花育活動を強化するために6月に研修会を実施（モミガラ培地等）。					

	<p><input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった</p> <p><input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p>
自己評価	<p>1 太田地域は、昭和36年の秋田国体を契機に住みよい郷土を住民の奉仕によってつくるため「花いっぱい運動」を提唱してきた長い歴史のある先進地域である。そのため住民総参加の運動として深く浸透している。地域花だんでは、市が助成する花苗以外に、自らが栽培した花で地域を花いっぱいにするなどの環境を整えており、特に「花いっぱいコンクール」は地域に欠かせない事業となり地域コミュニティの活性化に役立っている。</p> <p>2 上記の事業実施を通じて、花いっぱい運動の成果が地域に表れており、今後も地域と一緒にアイデアを出し合いながら続ける必要がある。</p>
課題等	花いっぱい運動の中心として活動を行っている、おおた花の会のメンバーが高齢化しており、今後の活動が先細りにならないよう、会員（特に若い世代）を増やす必要がある。また、多くの方に花づくりを始めてもらえるよう、花に親しむ機会づくりに取り組む必要がある。
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 太田といえば花だん、花だんといえば太田と言われるほど、本事業は太田地域の特色づくりや愛着形成、誇りの醸成に、多大な効果をもたらしていると思う。 歴史がある本事業は、今後も末永く継続することが望まれる。その意味で、今後若い世代の推進者の育成が鍵となる。</p> <p>◇ 太田地域の最大の特色ある事業である。地域・学校・団体等がそれぞれの活動や交流を通して、子供も地域住民も誇りを持って取り組んでいる。地域づくりと世代間交流がうまく促進されている素晴らしい事業である。今後も推進していただきたい。</p>

事務事業の点検・評価表

番号	13	分野	芸術・文化	担当課	文化財課
事業名	払田柵跡環境整備事業				
事業の目的	秋田県初の国指定史跡である遺跡の保存を図るとともに、日本や地域の歴史を正しく理解していただけけるよう遺跡の性格や内容を分かりやすく復元整備し、総合学習や生涯学習、市民の憩いの場として利用していただくほか、夏祭りなどの地域振興にも貢献できる多目的な活用の場として環境整備し、史跡をはじめとする文化財の保存と活用の啓発の場とする。				
事業の実施状況	事業費 第3次環境整備計画（平成16年度～令和5年度）に基づき環境整備を実施しているが、その計画完了前に外柵南門など復元建造物等の老朽化が進み、史跡見学者・利用者に危険を及ぼすおそれがある。このため、第3次環境整備計画を一度休止し、令和元年度から令和2年度にかけて、史跡内における復元建造物等を再整備するための計画を策定する。	事業費 4,777千円			
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった		<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった		
	史跡の環境整備によって県内外から多数の来訪があり、総合学習や生涯学習、市民の憩いの場、催事開催、グラウンドゴルフなど多目的に活用していただいている。 また、再整備計画の策定作業は順調に進んでおり、予定どおり令和2年度には計画書を刊行できる予定である。				
課題等	【第3次環境整備計画実施の遅れ】 第3次環境整備計画（主に外郭北東部の環境整備）に基づく事業進捗率は令和元年度末で約40%（事業費ベース）であり、他事業との予算の兼ね合いもあって遅れが生じている。事業計画期間の10年程度の延長や、計画されている実物大復元ではなく、新しい情報通信技術であるAR（拡張現実）やVR（仮想現実）を活用した可視化復元への計画変更も検討する。 【復元建造物等の老朽化】 外郭北東部の環境整備を実施する一方で、外柵南門など過去に復元した建造物等の老朽化が顕著になっており、倒壊等によって史跡見学者・利用者に危険を及ぼすおそれがある。これらの復元建造物等は史跡見学や利用の中核となっている施設ばかりであることから、第3次環境整備計画に基づく整備事業を一度休止し、復元建造物等の再整備（単なる修復ではなく耐震化・長寿命化対策を加えた再整備）を優先的に行う必要がある。特に外柵南門の再整備に当たっては、周辺の土地公有化も完了していることから、見学路整備や環境美化も併せて実施する。				
外部評価 有識者の意見・評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 復元建造物の老朽化が進む中、耐震化・長寿命化対策を加えた施設の再整備は、喫緊の課題といえる。予定どおり今年度中に再整備計画が策定されることを期待する。 「払田柵」は、県内初の国指定史跡であるので、学校で「ふるさと教育」を進める際、とても有益な施設である。今後は、ARやVRを活用した可視化復元にも期待したい。 ◇ 秋田県初の国指定史跡である。国補助金を活用し、計画の策定を進めているが、計画が絵に描いた餅にならないよう貴重な史跡を市民の学習や観光に活用できるような整備が今後望まれる。そのためにも、史跡の活用をどんどん増やしていきたい。 				

事務事業の点検・評価表

番号	14	分野	スポーツ	担当課	スポーツ振興課																																																																																																										
事業名	スポーツ合宿等推進交流事業																																																																																																														
事業の目的	スポーツ施設・宿泊施設を利用して行うスポーツ合宿、公式試合、交流試合等の実施を誘致・推進することで、スポーツ少年団や中学・高校の競技者等に刺激を与え、競技力の向上が期待できることと併せ、市民が競技スポーツへの関心を高めるとともに、スポーツを活用したまちづくりやにぎわいの創出を図り、地域の活性化に資することを目的とする。																																																																																																														
事業の実施状況	事業費		1,100千円																																																																																																												
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">①平成22年度から令和元年度までの推移</th> <th colspan="2"></th> <th colspan="2"></th> <th colspan="2"></th> </tr> <tr> <th>年度</th> <th>団体数</th> <th>総人數</th> <th>延べ人數</th> <th>平均人數</th> <th>平均宿泊数</th> <th>延べ合宿日数</th> <th>宿泊費総額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H22</td><td>5</td><td>234</td><td>1,855</td><td>47</td><td>8</td><td>43</td><td>10,809,900</td></tr> <tr><td>H23</td><td>8</td><td>329</td><td>1,758</td><td>41</td><td>5</td><td>50</td><td>10,211,750</td></tr> <tr><td>H24</td><td>12</td><td>628</td><td>4,783</td><td>52</td><td>6</td><td>82</td><td>24,889,182</td></tr> <tr><td>H25</td><td>20</td><td>858</td><td>5,166</td><td>43</td><td>5</td><td>115</td><td>26,383,847</td></tr> <tr><td>H26</td><td>15</td><td>791</td><td>5,382</td><td>53</td><td>5</td><td>89</td><td>28,491,286</td></tr> <tr><td>H27</td><td>15</td><td>660</td><td>3,809</td><td>44</td><td>5</td><td>82</td><td>20,245,814</td></tr> <tr><td>H28</td><td>18</td><td>921</td><td>5,571</td><td>51</td><td>4</td><td>85</td><td>28,603,917</td></tr> <tr><td>H29</td><td>23</td><td>970</td><td>5,253</td><td>42</td><td>3</td><td>106</td><td>26,297,510</td></tr> <tr><td>H30</td><td>34</td><td>1,105</td><td>5,149</td><td>33</td><td>3</td><td>96</td><td>25,113,017</td></tr> <tr><td>R1</td><td>26</td><td>1,050</td><td>5,680</td><td>40</td><td>4</td><td>93</td><td>29,019,681</td></tr> <tr><td>計</td><td>176</td><td>7,546</td><td>44,406</td><td>406</td><td>44</td><td>748</td><td>201,046,223</td></tr> </tbody> </table>							①平成22年度から令和元年度までの推移								年度	団体数	総人數	延べ人數	平均人數	平均宿泊数	延べ合宿日数	宿泊費総額	H22	5	234	1,855	47	8	43	10,809,900	H23	8	329	1,758	41	5	50	10,211,750	H24	12	628	4,783	52	6	82	24,889,182	H25	20	858	5,166	43	5	115	26,383,847	H26	15	791	5,382	53	5	89	28,491,286	H27	15	660	3,809	44	5	82	20,245,814	H28	18	921	5,571	51	4	85	28,603,917	H29	23	970	5,253	42	3	106	26,297,510	H30	34	1,105	5,149	33	3	96	25,113,017	R1	26	1,050	5,680	40	4	93	29,019,681	計	176	7,546	44,406	406	44	748	201,046,223
①平成22年度から令和元年度までの推移																																																																																																															
年度	団体数	総人數	延べ人數	平均人數	平均宿泊数	延べ合宿日数	宿泊費総額																																																																																																								
H22	5	234	1,855	47	8	43	10,809,900																																																																																																								
H23	8	329	1,758	41	5	50	10,211,750																																																																																																								
H24	12	628	4,783	52	6	82	24,889,182																																																																																																								
H25	20	858	5,166	43	5	115	26,383,847																																																																																																								
H26	15	791	5,382	53	5	89	28,491,286																																																																																																								
H27	15	660	3,809	44	5	82	20,245,814																																																																																																								
H28	18	921	5,571	51	4	85	28,603,917																																																																																																								
H29	23	970	5,253	42	3	106	26,297,510																																																																																																								
H30	34	1,105	5,149	33	3	96	25,113,017																																																																																																								
R1	26	1,050	5,680	40	4	93	29,019,681																																																																																																								
計	176	7,546	44,406	406	44	748	201,046,223																																																																																																								
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった																																																																																																														
	<p>令和元年度に市内で実施されたスポーツ合宿の総数は、26団体（種目別：硬式野球14、準硬式野球1、軟式野球8、テニス2、応援部1）で、総人數1,050人、市内宿泊施設への宿泊延べ人數4,647人、宿泊費の総額は約2,901万9千円となっている。</p> <p>新規の団体数が6団体、リピート団体が20団体となっているが、リピートの回数が5回以上の団体が10団体と半数を占める結果となっている。要因としては、団体側とスポーツ施設や宿泊施設など市の関係機関との良好な関係が構築されていることに加え、施設使用料を市が全額負担、市内移動の際に交通手段を市と関係機関で負担、緊急時用レンタカーの配備、入湯税減免など、辛いところに手が届くサービスの提供であると考えられる。更には、首都圏からの交通費・宿泊費と最低限の活動用具を準備するだけで合宿が可能となる環境が整備されていることも魅力の一つと思われる。</p>																																																																																																														
課題等	<p>スポーツ合宿の新規団体誘致は、立地・交通条件、交流戦（対戦チーム）のセッティング等、競技環境の整備や宿泊施設以外の条件を整えることが課題となるが、利用団体の要望にきめ細かな配慮を徹底し、より一層の団体誘致に努めたい。</p>																																																																																																														
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 参加者数、参加団体数とともに、この10年間で大幅に増えている。交流人口を増やし地域の活性化を図る目的は、十分達成されていると思う。経済波及効果もかなり大きいものと思われる。</p> <p>本事業は、地域の結束や誇りを高める非経済的な効果も期待される。今後更に拡充していただきたい事業である。</p> <p>◇ スポーツ合宿誘致では、リピーター率を上げる工夫がされている。利用団体へのアンケートや意見等を分析し、更なる誘致拡充を図っていただきたい。</p> <p>市民との交流（大仙市の人々の魅力）等が、リピーターへと大きい成果があると思われる。</p>																																																																																																														

事務事業の点検・評価表

		番号	15	分野	生涯学習	担当課	総合図書館														
事業名		だいせん読書の日事業																			
事業の目的		「第2次親と子の夢を育む読書活動推進計画」において、平成27年度から11月第1木曜日を「だいせん読書の日」と定め、家族や地域、社会が一体となって読書の喜びを共有できる読書活動を推進することを目的としている。																			
事業の実施状況	事業費			186千円																	
	<p>11月第1木曜日の「だいせん読書の日」を中心に、毎年10月から11月に市内各図書館で関連イベントを企画し実施している。多数の市民の参加や協力を得ながら幅広い年代の読書活動推進を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆主な企画内容 「ぶっくdeくっく」「本のお楽しみ袋」「としょかんまつり」「古本、雑誌リサイクル」「図書館の本を見て作った作品展」「図書館内のテーマ展示」等 ◆「だいせん読書の日」関連イベント数及び来館者数 <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>平成29年度</td> <td>21企画</td> <td>12,678人</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>25企画</td> <td>18,006人</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>24企画</td> <td>20,302人</td> </tr> </table> <p>市内小・中学校の関連イベントとして「『大仙っ子読書の日』運動」が行われており、図書館職員が作成した「親子で読みたいブックリストおすすめ本」を提供し利用してもらっている。学校への団体貸出にもつながっており有効に活用されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「『大仙っ子読書の日』運動」の学校への貸出冊数 <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>平成29年度</td> <td>1,228冊</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>1,571冊</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,139冊</td> </tr> </table> 							平成29年度	21企画	12,678人	平成30年度	25企画	18,006人	令和元年度	24企画	20,302人	平成29年度	1,228冊	平成30年度	1,571冊	令和元年度
平成29年度	21企画	12,678人																			
平成30年度	25企画	18,006人																			
令和元年度	24企画	20,302人																			
平成29年度	1,228冊																				
平成30年度	1,571冊																				
令和元年度	1,139冊																				
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった			<input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった																	
	<p>イベントへの来館者数は年々増加していること、図書館ボランティアやロータリークラブなど地域の方々の協力を得て実施した事業が多数あったこと、幼児向けから一般向けまでと幅広い年代の参加があり、「古本、雑誌リサイクル」などは地域では恒例となっており、毎年楽しみにしている市民も多いことから事業の目的はおおむね達成したと考える。</p>																				
課題等	<p>ポスターや広報等で周知に努めているが、市民全般に十分には認知されていない。イベントへの来館者数は年々増加しているが、図書館全体の年間の利用者数や貸出冊数は減少しており、いかにしてその後の利用に結びつけるかが課題である。また、図書館にもっと呼び込みたい中高生向けのイベントが少なく、工夫が必要である。「親子で読みたいブックリストおすすめ本」については、貸出時期が集中するため、発行時期を夏休み前に前倒しして実施したい。</p>																				
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 「だいせん読書の日事業」関連の来館者数が、年々増えている。関係される方々の地道な努力・企画の賜といえるだろう。今年度から「第3次読書活動推進計画(5箇年)」がスタートしたが、この計画の実施により、本事業が一層市民に浸透するよう期待している。</p> <p>本当に欲を言えばあるが、市内小・中学校の図書館にバーコード利用による蔵書管理システムが導入され、それが市の図書館のシステムと連動するような環境が整備されれば万全だろう。</p> <p>◇ 学校・家庭を巻き込んで読書に親しむ機会として、より一層PRに努めていただきたい。これまで実施してきたFMはなびやSNS等での発信、ブックスタートなど幼少期から親子で読書に親しむ環境づくりは大切である。</p>																				

事務事業の点検・評価表

番号	16	分野	芸術・文化	担当課	総合市民会館										
事業名	大仙市音楽祭2019														
事業の目的	<p>「音楽のまち大仙」として、市民により身近なものとするため、「ひとつづくり、きずなづくり、まちづくり」をコンセプトとした市民参加型音楽祭を開催して、音楽に触れ合うことのできる機会を提供する。</p>														
	事業費			4,503千円											
	<p>1 開催日：令和元年11月9日（土）・10日（日）・12月8日（日） 2 主 催：大仙市・大仙市音楽祭実行委員会 3 共 催：横濱音泉俱楽部・FMはなび 4 会 場：大曲市民会館大ホール・小ホール・大曲中学校</p>														
事業の実施状況	平成29年度				平成30年度				令和元年度						
	NO	日付	会場	公演名	入場者数	NO	日付	会場	公演名	入場者数	NO	日付	会場	公演名	入場者数
	1	11/5	大曲市民会館	仙台フィル 一般向コンサート	520	1	11/10	大曲市民会館	山形交響楽団 一般向コンサート	284	1	11/9	大曲市民会館	横濱音泉俱楽部 一般向コンサート	263
	2	11/3	大曲市民会館	楽器体験コーナー、 0歳からのオーケストラ	472	2	11/11	大曲市民会館	楽器体験コーナー、 0歳からのオーケストラ	518	2	11/10	大曲市民会館	楽器体験コーナー、 0歳からのコンサート	546
	3	11/3	大曲高校	楽器クリニック	77	3	11/11	大曲中学校	楽器クリニック	152	3	11/10	大曲中学校	楽器クリニック	106
	4	11/4	大曲市民会館	曲中ミニコンサート	216	4	11/10	大曲市民会館	企画公演① 市内小中高7団体	486	4	11/9	大曲市民会館	企画公演① 市内小中学校6団体	393
	5	11/5	中央公民館	地元吹奏楽部4団体 ミニステージ	296	5	11/10	中央公民館	企画公演② ソロエスター入賞者等	137	5	11/9	中央公民館	企画公演② ソロエスター入賞者等	103
	6	11/3	大曲市民会館	ホールサウンドツアーリ	28	6	11/11	大曲市民会館	企画公演③ 地元吹奏楽団体	213	6	11/10	中央公民館	企画公演③ 西根小・羽川ストリングス	258
	7	11/3	中央公民館	薦バレエミニステージ	160					7	12/8	大曲市民会館	大いなる秋田 大演奏会	468	
8	11/4	大曲市民会館	仙台フィル 市内全中学生	1,963											
				3,732					1,790				2,137		
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成したが課題があった				<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった										
	<p>3年目となる令和元年度は、「みんなでつくる」「みんなで楽しむ」「みんなの音楽祭」をテーマに、ジャズのビッグバンド「横濱音泉俱楽部」を中心とした演奏会と、市内小中学生及び地元団体とのコラボ等の企画を組み入れた内容であった。中でも「楽器体験コーナー」「0歳からのオーケストラ」は、前年同様、幼児・小学生及びその保護者に大変好評であった。また、プロの指導を直接受ける「横濱音泉俱楽部クリニック」は、中高生が積極的に参加し、貴重な体験となつた。多くのボランティアの協力があり、出演団体と来場者との一体感のある演奏会となり、テーマどおり広く市民が関わる音楽祭となつた。</p>														
課題等	<p>市民満足度の高い「大仙市音楽祭」に向けて、音楽祭実行委員会が主体となって、市民のニーズを積極的に取り入れ、企画内容の充実を図ることが課題である。</p>														
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ プロの指導を直接受ける「クリニック」の実施は、地元の小中高生にとっても大きな刺激になるだろう。幼少期の子供たちに楽器を体験させる企画も見事だ。実行委員会には、今後も斬新なアイデアを企画してほしい。 音楽の街を強く打ち出すため、幅広い世代向けに開催する市民参加型の催しとして、本事業は今後も継続が望まれる。 ◇ 幅広い年代層を対象とした音楽祭はなかなか企画内容が難しいと思われる。その中では、0歳からのコンサートは、親子が多数参加し、リラックスして音楽に親しむ様子が見られた。 まだ、3年目であり、今後は企業や事業所、学校、福祉施設等からも協力をいただき、市民が幅広く音楽に親しむ機会を創出してくれればありがたい。</p>														

事務事業の点検・評価表

番号	17	分野	芸術・文化	担当課	花火伝統文化継承資料館		
事業名	花火伝統文化継承事業（企画展示）						
事業の目的	「大曲の花火」関連をはじめ、全国各地から収集・保存している花火資料を展示し、資料館への誘客を図るとともに、花火伝統文化の普及と継承、発展に寄与することを目的とする。						
	事業費		960千円				
事業の実施状況	<p>【企画展】 ※3階花火資料室 平成30年8月～ 大曲の花火プログラム・ポスター展 平成31年2月～ 大曲・土浦・長岡花火展 令和元年7月～ 全国花火競技大会 受賞作品展 令和2年2月～ 大曲の花火 大会提供花火のヒミツ</p> <p>【特別企画展】 ※別館 平成30年8月～10月 ありがとう「大曲の花火」を支えた全国の花火師たち 令和元年8月～10月 昭和～平成～令和 花火と大曲の街の変遷展</p> <p>【テーマ展】 ※3階花火資料室コーナー 第1回奥羽六県煙火共進会展、大曲の花火グッズ展、おもちゃ花火展、花火の絵本・書籍展、この花火玉どう開く？展</p> <p>◎花火伝統文化継承エリア入館者数 平成30年度（8～3月） 33,471人 令和元年度（4～3月） 33,455人</p>						
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった			<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった			
	<p>単なる資料の羅列にならないように、花火師の方からお話を伺ったり、貴重な資料の提供、資料館職員へのレクチャーを行っていただくなど協力を得て、来館者から興味深く見ていただける工夫をした。 改善・配慮すべき点はまだまだあることから、今後の展示に生かしたい。</p>						
課題等	<p>花火に関する企画展示ということで、花火に対する高度な知識や展示品のディスプレイ技術など特殊な知識が求められる業務であるため、企画の大部分を委託業務に頼ってきた。</p> <p>令和2年度からは、新たに配置された学芸員を中心として、職員間での知識や技術の継承と練磨を図り、幅広い層の花火ファンに満足していただけるよう、専門性の高い展示企画を安定して発信できるようにしていく必要がある。</p>						
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○ 入館者は、今のところ順調に推移している。「はなび・アム」のような施設は、図書館や博物館と同様に、「資料収集」と「企画展示」の二つが命である。企画展示については、今後「体験型メニュー」を増やすなどして、リピーターの確保や新たな入館者を開拓していただきたい。</p> <p>今年度から学芸員が配置されたので、今後、学芸員による市内園、小中高校等への「出前講座」なども企画していただきたい。</p> <p>◇ 全国的に花火資料展示・保存する資料館は少なく、その意味では「大曲の花火」関連のみならず貴重な資料が保存・展示される施設であり、その肝が魅力ある企画展示である。リピーターが来場するたびに驚きと発見がある企画や初めての来館者も楽しめる工夫を期待したい。</p> <p>また、地元の児童・生徒や市民にも花火資料を理解促進する役割もある。はなび・アムでのボランティアの育成もその手立ての一つとなると考えたい。</p>						

学識経験者の総評

小笠原重夫（秋田県社会教育アドバイザー）

仕事柄、県南部の各市町村の事業等に触れる機会が多いが、率直に言って、大仙市教育委員会は「とても頑張っている！」という印象が強い。これは、前年と変わらない印象である。

人口減社会が到来し地方財政が逼迫する中、予算の縮減や人員の削減に留まらず、講座受講者の高齢化・固定化、芸術文化協会等団体の解散などは、今やどの市町村にも見られる課題である。

しかし、大仙市教育委員会の各課・各機関の事業を点検すると、そのような課題を抱えつつも関係者の必死の努力・工夫によって、相応の効果を上げていることが十分に見て取れる。

今回は、各課の頑張りはもちろんだが、地域公民館や図書館、市民会館、花火伝統文化継承資料館といった各機関の頑張りが目を引いた。個人的には、社会教育施設と位置づけられる公民館が、大仙市の場合まだまだ元気であることを、とてもうれしく思う。

公民館の活動目標は、「地域ぐるみで、ひとづくり、ものづくり、まちづくりを推進すること」にある。公民館には、体験や実践を重視する特色を生かしながら、地域の教育力の再編・強化やまちづくりを推進する運動体として、引き続き頑張っていただきたい。

以下は、既に各課・各機関において既に十分取り組まれていることであるが、今後も教育行政の役割として留意していただきたい点である。

- 1 地域に関する広く深い情報提供
- 2 地域団体のネットワークづくり
- 3 地域活動への支援・アドバイス
- 4 地域づくりの担い手育成、地域団体のリーダー養成

この度の新型コロナウイルス禍では、市民サービスの重要性をあらためて認識させられることとなった。大仙市には課題も少なくないが、大仙市教育委員会の各課・各機関には、それを乗り越える発想と活力で、更なる市民サービスの充実に努めていただきたい。

沢屋隆世（秋田大学教育文化学部非常勤講師）

人口減少や少子高齢化が進み、地域の絆が薄れてきている状況の中、今こそ地域社会のための教育が求められており、地域の課題等に主体的に関わり自らの力で社会を創り出す人材の育成が教育委員会や学校、社会教育機関等の役割となっている。

その意味では、教育環境の整備も含め、様々な取組が幅広く行われており、単にイベントで終わることなく、交流や活用まで広げ人材の育成へと繋げている事業が多く見られた。

また、大仙市教育委員会職員の皆様が試行錯誤して、市の財源に頼るだけでなく、国・県の補助金や交付金を活用しながら、教育環境の整備や教育課題、地域課題へアプローチを事業等として取り入れながら工夫されている。公民館の事業の中には、是非とも大仙市全てに広げていただきたい事業もあった。

今後も、アンテナを高くしながら、国・県の交付金や補助事業をうまく活用し、市の財源を工夫しながら市民への教育サービスを拡充することは重要な観点である。

この後は更に、教育行政、学校や他の機関、団体等が連携して、明日の大仙を推進する担い手の育成に、一層力を注いでいただきたい。